

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター 所長

チュウゴクナシキジラミの防除対策の徹底について

県内のナシにおいて、チュウゴクナシキジラミの寄生が多い園地が一部にみられています。また、新たに本種の発生が確認された園地もあり、今後増殖して越冬すると翌年の被害が大きくなります。については、下記事項を参考に本種の防除対策を徹底してください。

記

1. 県内での発生状況

- 1) 8月中旬に行った巡回調査(県内6地点)において、一部で本種の発生が多い園地がみられている(表1、図2)。
- 2) 本年の9月上旬に、巡回調査地点以外の園地(12園地)を調査した結果、新たに6園地で発生が確認された。

2. 防除対策

- 1) 葉におけるすす病や黄化及び落葉、幼虫が分泌する甘露を目安として、本種の発見及び発生量の把握に努める(図1)。
- 2) 本種の発生がみられる場合は「表2」を参考に薬剤防除を行う。
- 3) 本種は成虫で越冬し、2月下旬頃から再び活動を始めるため、多発園を中心に秋期の薬剤防除を徹底し、越冬個体の密度低減を図る。

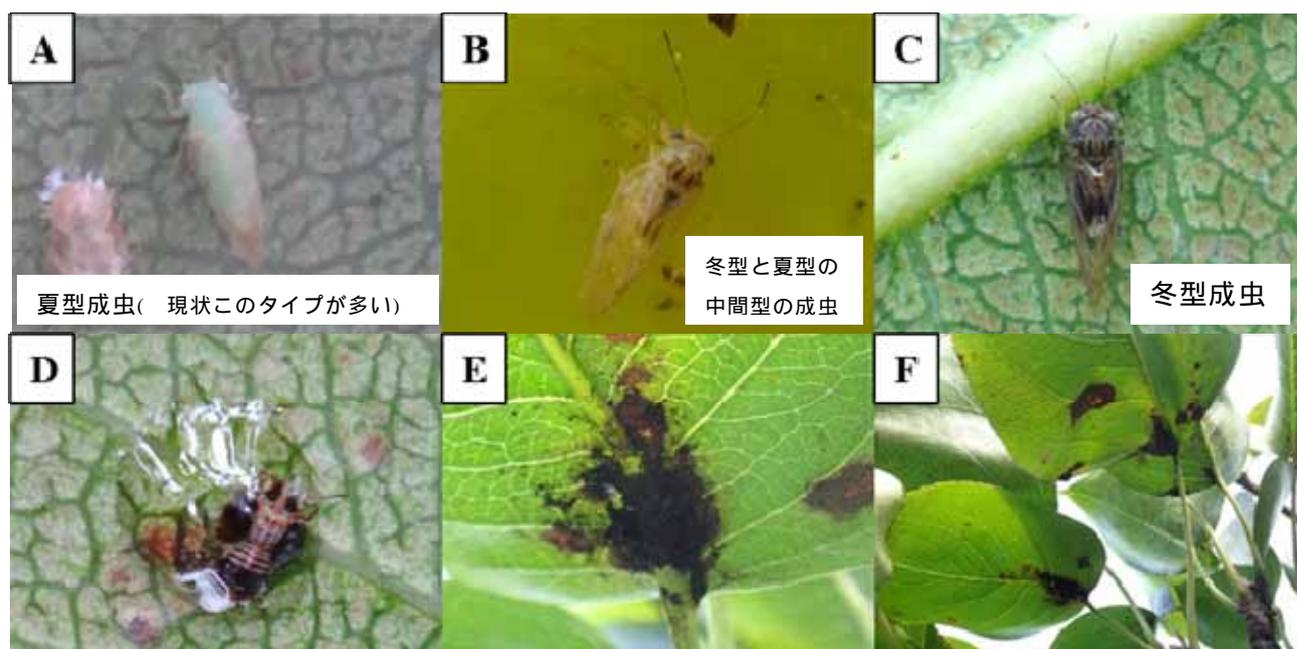


図1 チュウゴクナシキジラミ及び本種によるナシへの被害

A: 成虫(夏型) B: 成虫(夏型と冬型の中間型) C: 成虫(冬型)
D: 幼虫と甘露等 E: 葉のすす病 F: 葉の褐変症状

表1 8月下旬の巡回調査におけるチュウゴクナシキジラミ寄生新梢率 各圃場100新梢調査

圃地番号	A	B	C	D	E	F	平均	平年値 (H24~26の平均)	前年値
寄生新梢率(%)	6	0	1	0	1	34	7.0	1.1	1.5

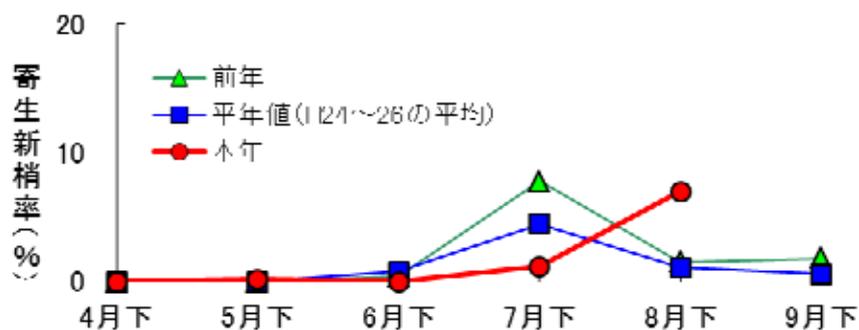


図2 巡回調査地点におけるチュウゴクナシキジラミ寄生新梢率の推移

表2 チュウゴクナシキジラミに登録のある薬剤

薬剤名 (成分名)	希釈倍 数	使用時期	使用回数	備考
アクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム)	3,000倍	収穫前日まで	3回以内	アブラムシ類にも登録あり
スタークル顆粒水溶剤 (ジノテフラン)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	シンクイムシ類、カメムシ類等にも登録あり
ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	シンクイムシ類、カメムシ類等にも登録あり
ディアナWDG (スピネトラム)	5,000倍	収穫前日まで	2回以内	シンクイムシ類、ハマキムシ類等にも登録あり
アドマイヤー水和剤 (イミダクロプリド)	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	アブラムシ類、カメムシ類等にも登録あり
ベストガード水溶剤 (ニテンピラム)	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	アブラムシ類、カメムシ類にも登録あり

表中の農薬登録情報は平成27年9月10日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。